

第4回情報 IT フェア報告書

I. 実施概要

日 時：令和元年11月30日（土）・12月1日（日）10時～15時
場 所：情報科学高校 体育館・校舎
天 候：両日とも晴天または曇り（開催時間中の降雨なし）
来場者数：1日目…1,004名（昨年786名）
2日目…1,287名（昨年727名）
合 計…2,291名（昨年1,513名 昨年度比1.51倍）
体験講座：本校主催講座……………15講座
参加団体出展講座……………16講座
地域研究班と島根大学とのコラボ講座… 1講座 計32講座
食べもの屋台テナント：10団体（本校なでしこ委員会含む）
ステージイベント：5種

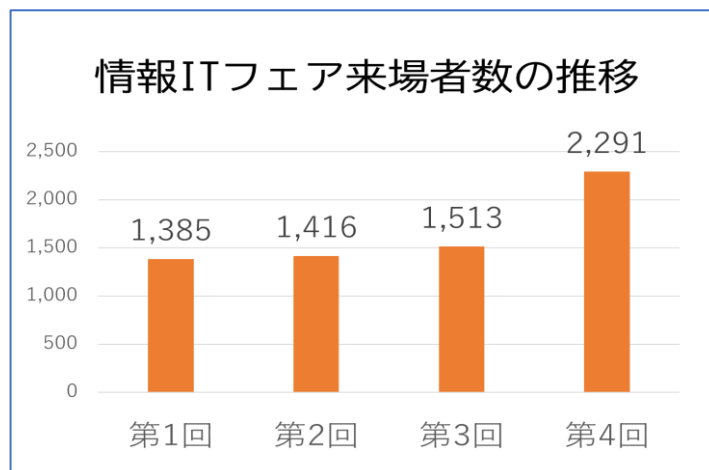
II. 実施報告

1. 過去と未来、学校と地域と産業界をつなぎ、そして未来へとつないだ情報 IT フェア

第4回目となった今回の情報 IT フェアはこれまでの情報 IT フェアから得られた気づきを反省点として、改善するところから活動を開始した。

企画運営の主体は、3年生課題研究の起業家班のメンバー19名であり、この生徒たちが実行委員となって学校全体を動かした。生徒主体を貫き、生徒の自由な発想で創造力を大いに発揮した結果、これまで微増を続けてきた情報 IT フェアから一気に飛躍するイベントへと発展させることができた。

今回のフェアのテーマは Interface～開花せよ突破せよそして未来へ～であった。起業家の生徒達から4月当初にテーマを募り、多数出た素晴らしい提案を組み合わせ考案したものであった。岩木実行委員長をはじめとする今回の起業家生徒達の、学校全体や地域を想う情熱が体现された素晴らしいテーマとなった。Interfaceのテーマのとおり様々な過去の取り組み、地域の子供たちや参加団体様とつながり、フェアが終わった今もそのつながりが継続しており、次の新たな活動へと広がっている。これからの社会を担う生徒たちにとって、周囲の方々にどれほど支えられているかを知り、それに感謝する心、また未熟な自分たちでも知識技術を活かせば地域社会に貢献できることと、その喜びを知る最高のイベントとなった。



2. 運営面での進化

第3回で実現できなかったことを、第4回では進化させた形で実現させることができた。



第4回 情報IT フェア



11300002

Interface

～開花せよ、突破せよ、そして未来へ～

★お客様の写真撮影と画像利用についてご承諾ください。
体験中のご様子を撮影し、本校の広報活動に活用させていただきます。

★お帰りの際は必ず受付にこのカードを返却してください。

アンケート

1. 年齢別に人数を記入して下さい。

未就学のお子様	名	高校生	名
小学 1～3 年生	名	10 代～20 代	名
小学 4～6 年生	名	30 代～40 代	名
中学生	名	50 代以上	名

2. 当てはまるものにチェックをして下さい。

★どこから来られましたか。

☐ 安米 ☐ 松江 ☐ 米子 ☐ 島根県内 ☐ その他 ()

★情報科学高校とご関係を教えてください。

☐ 保護者 ☐ 卒業生 ☐ 特に関わりはない ☐ 教育関係者、

☐ その他 ()

★何でこのイベントを知りましたか。

☐ チラシ ☐ 新聞 ☐ ポスター ☐ ラジオ

★来場目的を教えてください。

☐ 体験講座 ☐ 参加団体ブース ☐ ステージイベント ☐ 視察

☐ 進学先の見学 ☐ お土産販売 ☐ 飲食テナント

★IT フェアの満足度を教えてください。

☐ 満足できた ☐ 普通 ☐ 満足できなかった

①バーコード受付

お客様にはグループを代表してお一人、受付をしてもらった。入場、退場の際に今回初となるバーコード受付を実現。読み取りと同時に来場日時を瞬時に記録。退場時にも退場日時を記録するとともに、簡易なアンケートに回答してもらうことによって、客層、本校との関係性、来場目的、イベントを知ったメディア、滞在時間などの詳細データを集めることができた。集まったデータは1,794件で、これは来場者数の78.3%となり、得られたデータ量は過去最高となった。

②起業家人数（実行委員）の増員

第3回は14名の生徒で構成したが、4回は19人で企画運営に取り組めた。昨年度の経営企画班と統合した形となり業務内容も増えたが、多岐に渡る組織業務の隅々まで目配りして業務を行うことができた。これにより、各業務リーダー（生徒）や担当教員との打ち合わせなど細かな報連相ができ、問題の早期把握や解決を行うことができた。また起業家生徒の学科の専門性を活かした適材適所の人員配置を行うことにより、生徒の能力を最大限発揮して企画運営することができたこともイベントの成功に大きく貢献した。

③混雑状況表示システム

校舎棟内に点在するパソコン教室の混雑状況を、体育館に居ながらにして一覧でわかるよう表示することができた。これにはgoogleのスプレッドシートを活用した。起業家本校講座担当生徒が、定期的に巡回し持ち歩くタブレットまたはPC教室の端末で入力するものが随時、体育館入り口に設置した大画面モニタ反映されるしくみによって実現した。今回は表示しただけなので、次回以降はこの画面をお客様や受付案内の生徒が逐一確認してお客様の誘導に役立ててほしい。

④スタンプラリーと情報科学探検ツアーの開催

スタンプラリーは第2回から実施しているが、お客様に5つ体験してもらうハードルが高く、景品が余ってしまうことが3回までの課題となっていた。この改善のために、スタンプラリーの対象講座を増やし、体育館はほぼすべての体験講座でスタンプを押した。短時間で終わる講座もあり、各日300個用意した景品はほぼすべて配布することができた。一方探検ツアーは景品が400程度余った（2日間で600個用意）ため、ツアー参加者は想定より少なかったといえる。ツアーのしくみの周知が徹底しなかったことや、クイズの問題が難しかったなどの課題が見つかったので次へ活かしていきたい。

3. 情報科学高校で遊ぼう学ぼう講座の毎月開催と情報 IT フェアでの表彰式の実施

今回の来場者数の増加の要因のひとつに遊ぼう学ぼう講座の実施が挙げられる。この取り組みは第 1 回から実施している。本年度は 5 月に「水族館をつくろう」6 月に「紙芝居をつくろう」7 月には「ゲームをつくろう」を実施。小学生からタブレットでプログラミングができる Scratch. Jr のアプリを使用し、プログラミングのおもしろさを伝え続けてきた。講座の案内をすると、毎回定員を超える勢いで申し込みがあった。地域の子供たちと、プログラミングを学ばせたいという熱心な保護者さんがおられ常連となるご家族も多かった。また、開催時に次回講座の案内や情報 IT フェアの案内チラシを必ず配布して周知していたため、次のイベントへと興味関心をつなげることができていた。今回の情報 IT フェアでは 2 日目に作品表彰式を初開催。表彰のプレゼンターとしては、本校 2 期生でテラスカイの今岡様、IT 人材育成事業講師の石倉様、本校校長に依頼し快諾を得た。過去の講座参加者や卒業生、本校の講師を情報 IT フェアとつなげることができた。表彰されて嬉しそうな小学生や保護者さんの表情を見て、運営側も嬉しくなった。



4. 広報活動の強化

学校名に地名が無く、創立 30 余年と歴史の浅い本校の知名度は高くない。米子市や松江市など近隣市町村でさえ本校の存在自体を知られていないので、本校の学習内容や魅力が伝わっていないのは言うまでもない。従って、まずは本校の存在を知ってもらうこと、そして情報教育に特化しており、地域の方に開かれた県立高校であるということを知らせるために下記の広報を行った。ポスター印刷や桃太郎旗の作成はせず、チラシを広範囲に配布することでイベントを周知する方法を試みた。今後は SNS による情報の拡散が必要である。

チラシの作成にはマルチメディア科の 3 年生起業家生徒 2 名が取り組んだ。Adobe イラストレータを利用してメインターゲットである小学生の目に留まるよう、明るく、画像を多く用いたチラシをデザインした。デザイナーふかだ様の指導も受けて格段にクオリティを上げた。このチラシの完成度の高さが来場者数の増加に大きく貢献したのは間違いない。



■チラシ配布

安来市内小・中学校	チラシ配布	約 3,000 枚
米子市内小・中学校	チラシ配布	約 10,000 枚
松江市内小・中学校	チラシ配布	約 15,000 枚
安来市内山陰中央新報折り込み広告		15,000 枚

■新聞

青春はつらつ新聞（山陰中央新報）11 月 27 日（水）掲載
イベント情報にて写真付き掲載

■プレスリリース

報道投げ込み 11 月下旬実施

■メール

インターンシップでお世話になった事業所 約30事業所
しまね留学で資料請求のあった全国各地の中学生
旧職員（昨年度勤務された先生）
安来・松江市のIT企業

■SNS

情報ITフェアfacebookにて情報発信

■ホームページ

詳細な情報のアップ（随時）

5. 参加団体とのつながり

①出展者が新たな出展者を紹介

今回嬉しかったのは、参加団体様のご紹介によって新たな参加団体とのつながりが生まれたことだ。第3回から参加してくださっている、とっとり自然環境館様が、以前地域の環境イベントで一緒に出展されていた「ソフトバンク」様と「だらずFM」様を紹介してくださった。とっとり自然環境館の梅林理事長様や職員の方が前回出展時に本校のイベントや生徒の対応の良さに感動されて、ご紹介いただいた。これは本校のイベントや生徒の素直さ礼儀正しさが、出展者の心を動かした結果生まれた繋がりということになる。そして今回初出展してくださったソフトバンク様とは、今後もペッパー君を活用したプログラミング・AI教育で、本校の授業内で継続した支援をしたいとの意向を示していただいております、次のステップへと新たな繋がりを生み出している。

②参加団体さまとのつながりから得られたこと

たくさんの参加団体様に参加していただき、イベントに活気を与えていただいたのはもちろんのことだが、その他にも多くの収穫があった。参加団体様は各団体様のコンテンツの発表・PRとなる。団体の活動や製品、サービスを多くの来場者に強く印象付けたり、体験者の反応を見て自社コンテンツの善し悪しを評価することが出来る機会となるようだ。

一緒にブース運営する生徒にとっては、普段学校では体験できないコンテンツに触れることができるので、絶好の学習の機会であった。逆に、参加団体の皆様が、情報ITフェアの本校体験講座などを見て回られて、本校の情報教育に特化した学習内容やPC機器など施設設備の充実していることを知っていただけた。また、生徒との運営で生徒達の素直さや勤勉さ礼儀正しさなども知っていただくことができる。

また、参加団体様同士でも繋がりが生まれており、新たなビジネスパートナーとなる場面も多々見られた。本校を核としたコンソーシアムの基盤がより一層繋がりを強めたり、繋がりを増して、コンソーシアム全体が拡大していく様子を目の当たりにすることができ、企画側としても大変喜ばしいことだった。

6. フェア開催による効果



情報ITフェアの開催目的は「情報教育に特化した日頃の学習とビジネスマナーを発揮して地域に貢献すること。また、この活動が本校の魅力のPRに繋がり地域に愛され必要とされる学校になること」である。この開催目的は第1回からの普遍的なテーマとして受け継がれている。この開催目的を常に生徒・教職員がしっかりと認識して運営にあたっており、このことが組織として向かうべき方向性を一つにし、団結力を強めている。

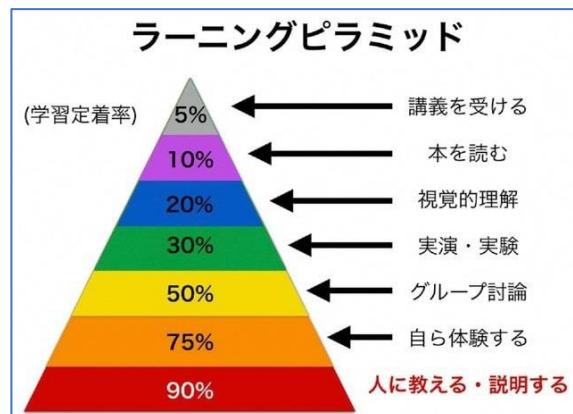
情報ITフェア開催による効果は、下記の4点にまとめられる。

①生徒への教育効果について（開花・・・発揮）

生徒達は本校の学習内容が情報分野に特化した極めて珍しい学習内容が含まれているということをあまり認識できていない。これは、県内の他の商業高校の学習内容と対比させることが困難だからに他ならない。しかし、情報ITフェアにおいてその学習内容を発揮して、お客様に対応し、コミュニケーションをとっていく中で、本校の学習内容の特異性や専門性の高さ、設備機器の充実している様子について、お褒めの言葉をいただくことにより、情報教育に特化していることを認識させ、また生徒の学習に対するモチベーションの向上につながっていると感じる。効果はそれだけではない。アメリカ国立訓練研究所の研究によると、人に教える・説明する活動は、学習定着率は90%となる。このことはアクティブラーニングが推進されている理由にもなっている。

また、県内商業高校のデパートとも明らかに異なる学習体験であり、これによって他校との差別化を図れていることも、体験から認識することができる。

何より、学んだことや日頃のビジネスマナー力を発揮してお客様に喜んでもらう体験は、従来の試験や受験に向けた外発的学習動機ではなく、自己実現や社会貢献に向けた内発的学習動機となり、これからの変化の激しい時代を生き抜いていくための力を育むことにつながると考えている。



②生徒への教育効果（突破・・・課題解決力の向上）

運営業務も講座業務も、起業家の示す大枠を基本として進めるが、詳細な企画・運営は各業務に任せている。予め起こりうる問題を課題として予想し、その予防に努めて実践して、効果を検証する。そうやって円滑な業務の運営を図る。このスタンスを事前の準備から本番、片付けに至るまで貫く。生徒達は自分たちの業務に責任感をもってあたり、問題が発生すれば生徒達で解決策を考案し、実践する。改善が見られなければ新たな方法を試す。このPDCAサイクルを繰り返し、プライドをもって業務にあたる生徒達の成長はとても頼もしいものだった。

本校のPBL方式で実施するインターンシップと同様に、本校の課題解決型学習の柱になっている。

③学校の魅力発信

情報ITフェアを開催するようになってから、来場者数と参加団体は年々増加してきており、開催する度により多くの人々へ本校の存在と魅力が伝わって、人々の心を動かしているように感じる。特に今回は米子市・松江市への広報の範囲を拡大したこと、だらずFM様による情報発信などが一定の効果を上げることができた。しかし、まだ十分ではないので今後も積極的な情報発信に努めたい。

④コンソーシアムの拡充

前述にも述べたが、本校は情報ITフェアだけでなく、年間を通して多様な団体と共に教育事業を展開している。インターンシップや近隣中学校でのビジネスマナー指導、安来市役所の各部署、安来市教育委員会の依頼を受けてのプログラミング教育支援、姉妹校大分情報科学高校、高大連携の島根大学・福山大学などがある。各種団体と本校生徒の関わりは「教える」・「教わる」・「一緒に学ぶ」・「支援する」など多岐にわたり、これらの活動は渦を描くようにスパイラルに拡大している。このことは、コンソーシアムの基盤を整備構築した商業部の想定範囲をはるかに超えたレベルで次々と新たな繋がりを生み出している。本校を核として、本校の教育に関わり積極的な支援をしてくださる皆様に感謝しながら今後もコンソーシアムのさらなる拡充を目指したい。

Ⅲ．課題

①情報発信の不足

チラシ配布範囲を松江米子まで広げたが、まだまだ情報発信は不十分であり、本校の存在、イベントの認知度は低いと感じる。今後は、SNSでの情報発信をより一層積極的に行ったり、テレビ取材が行われるような働きかけを行いたい。

②生徒体験時間の不足

ITフェア当日は、生徒達はそれぞれの業務に専念せざるを得ないため、この本番二日間しか見ることのできない参加団体ブースでの体験ができていない。本校の学習内容や学科の特色の理解、最新テクノロジーを体験として知るためにも、次回以降は本番中に生徒体験時間を設けるようにしたい。

③安来市教育委員会の後援

本イベントは市教育委員会の後援を得ていない。このことが理由で、円滑なチラシを配布ができない事案があったため、次回以降は市教委の後援を得たい。

④ビジネスマナーや身だしなみ指導

お客様や参加団体の皆様から好印象をいただいたが、まだ不十分なところもあった。日頃の指導を大切にするはもちろん、準備期間の丁寧な指導を徹底する必要がある。

⑤参加団体の充実と進化

第4回においては、広い体育館が手狭になるほど多くの参加団体様にご協力いただいた。今後も引き続きご協力いただくと共に、内容を刷新したり、新たな参加団体様に加わっていただくなど、常に新鮮な体験講座をお客様に提供したい。

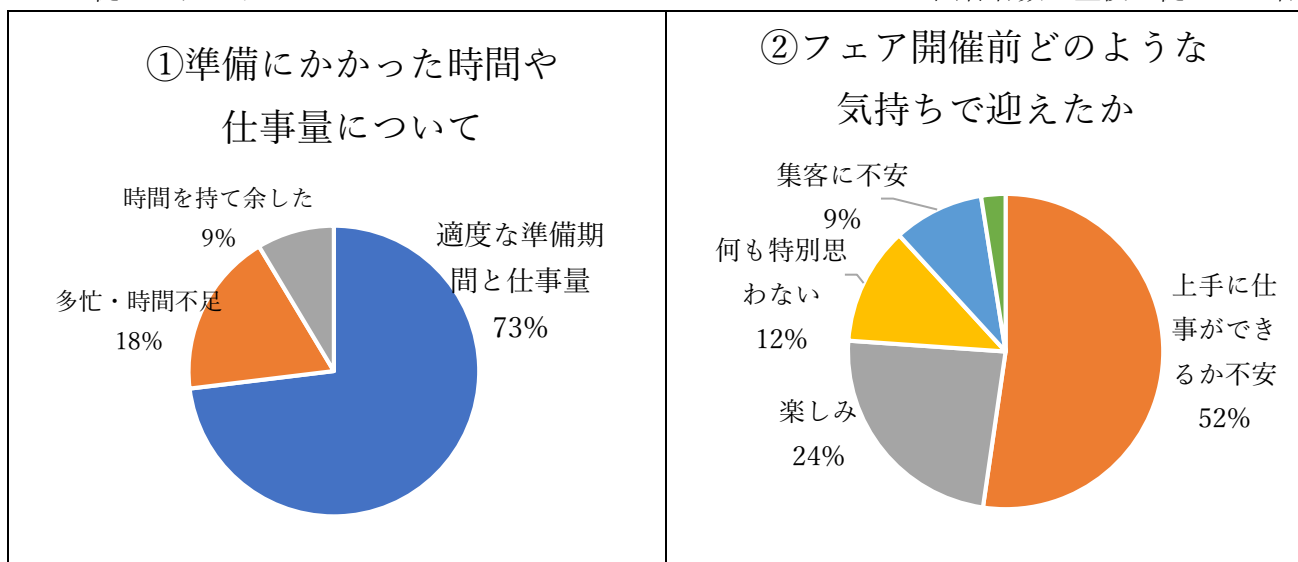
⑥本校のイベントから安来市のイベントへ

今回の来場者数は約 2,300 人であった。当イベントの認知度の高まりと、地元市民のプログラミングやITに関する体験への興味関心の高まりから、今後も来場者数は増加すると思われる。このことをから、将来的には本校のイベントという枠組から安来市と共同開催するイベントへと進化させていきたい。

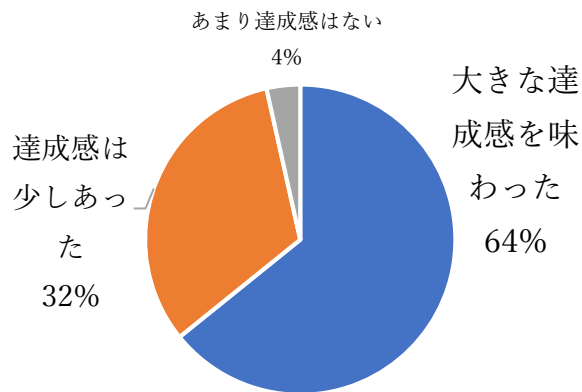
Ⅳ．資料

1. 生徒アンケート

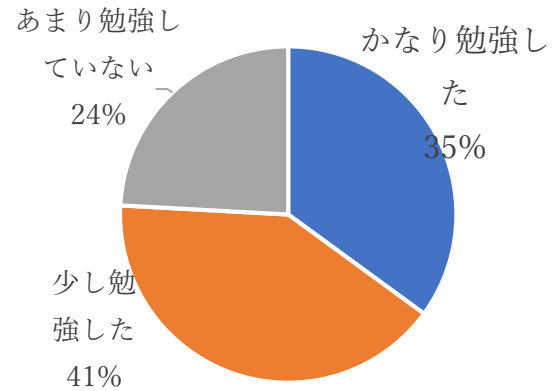
回答者数：全校生徒 281 名



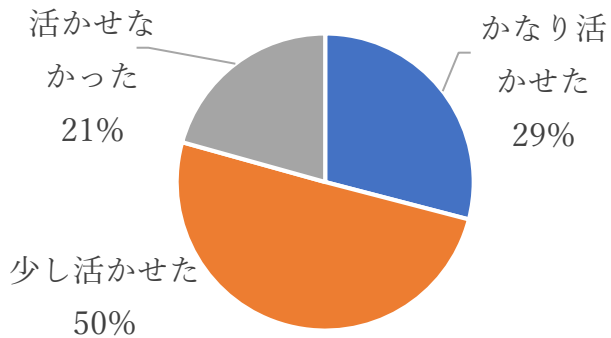
③フェア終了後どのような気持ちになったか



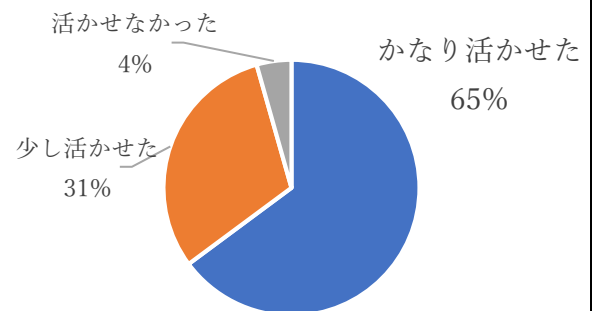
⑦特別な勉強や練習をどのくらいしたか



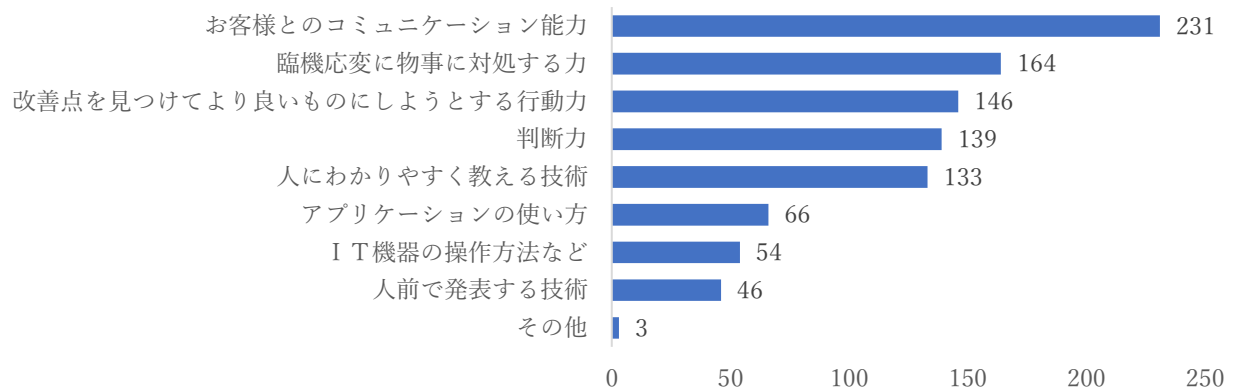
④学んだことが活かされたか



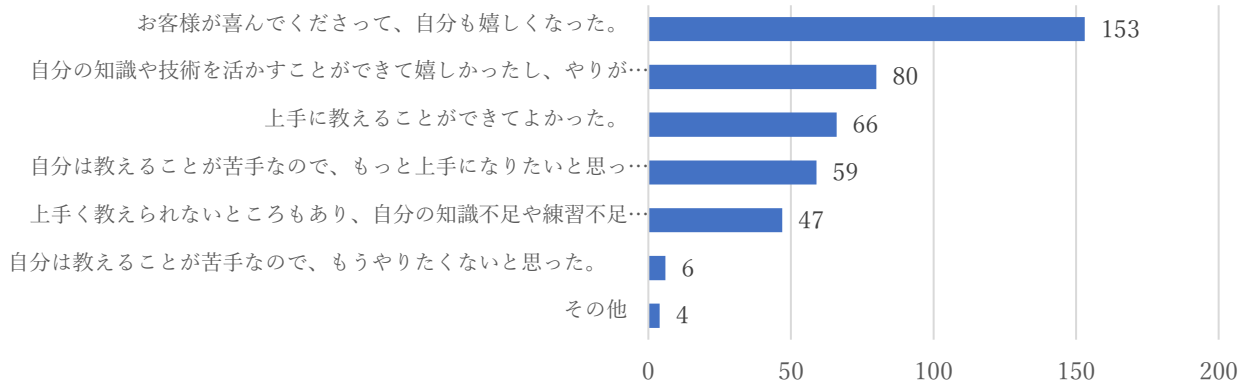
⑤ビジネスマナーが活かされたか



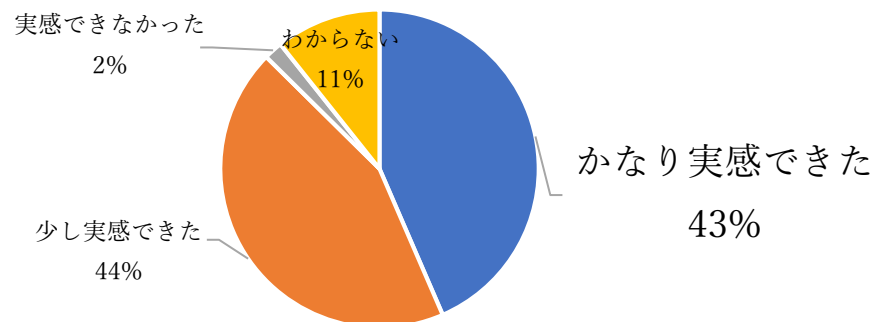
⑥情報ITフェアで自分が成長できたと感じたこと



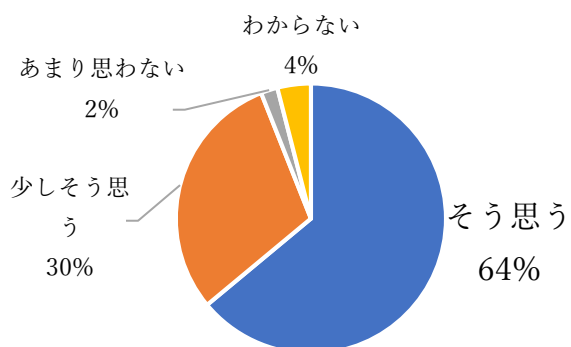
⑧お客様に教える体験をした感想は。（講座業務のみ3つまで）



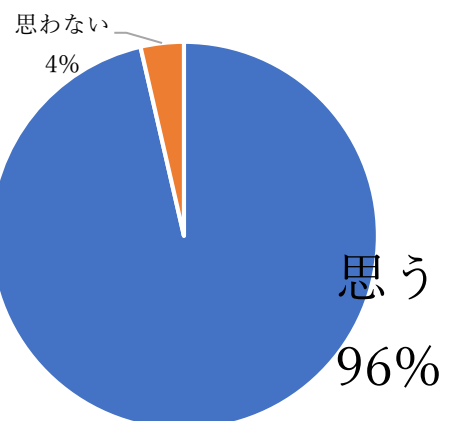
⑨フェアでの活動を通して、本校が情報教育に特化していることや自分たちが磨いてきた知識技術は価値あるものだと実感できたか。



⑩フェアは本校がより一層地域に愛され必要とされる学校になることや地域貢献に繋がったと思うか

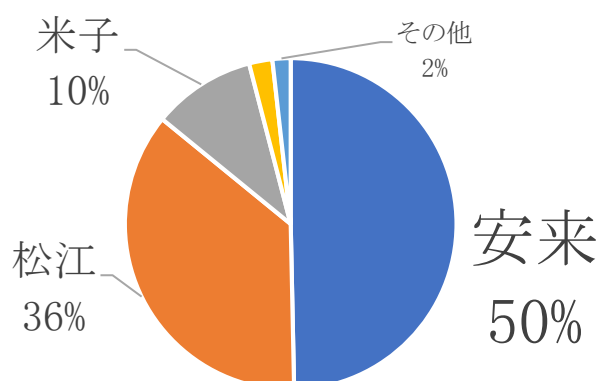


⑪来年度以降もITフェアを継続したいと思いますか

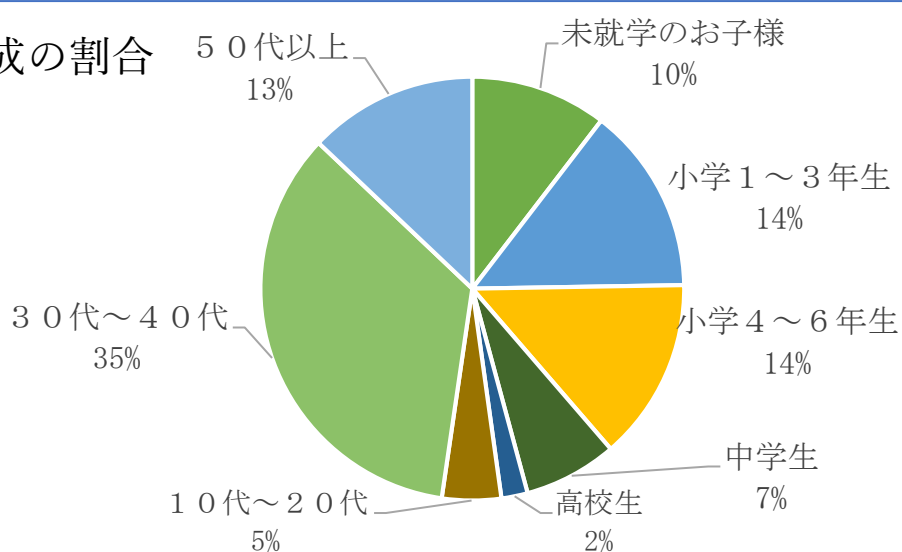


2. お客様アンケート 回答数：1,794 名分（各来場グループの代表者 1 名回答のデータ数：670 件）

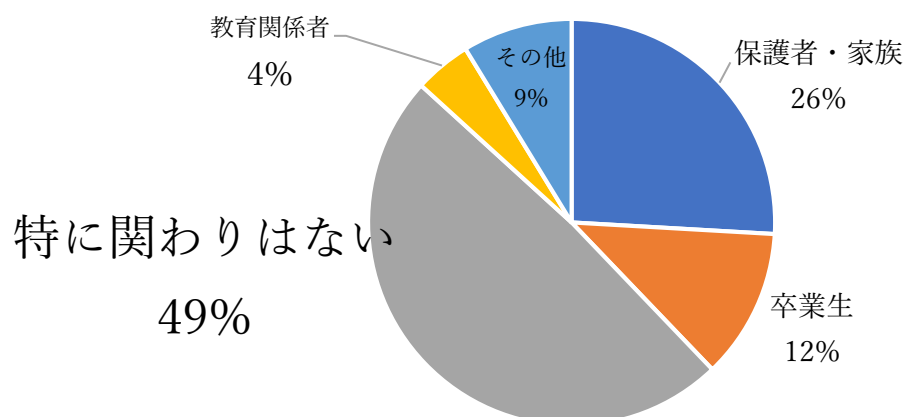
どこから
来られましたか



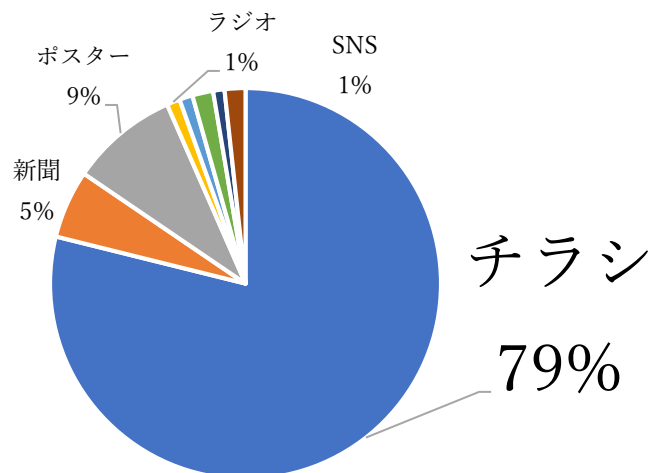
年齢構成の割合



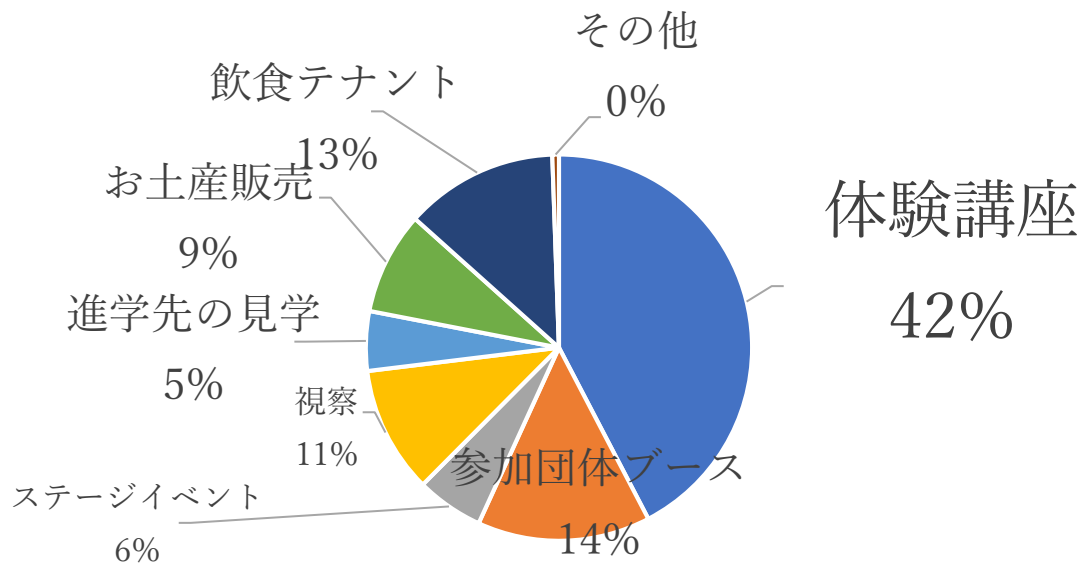
情報科学高校とのご関係



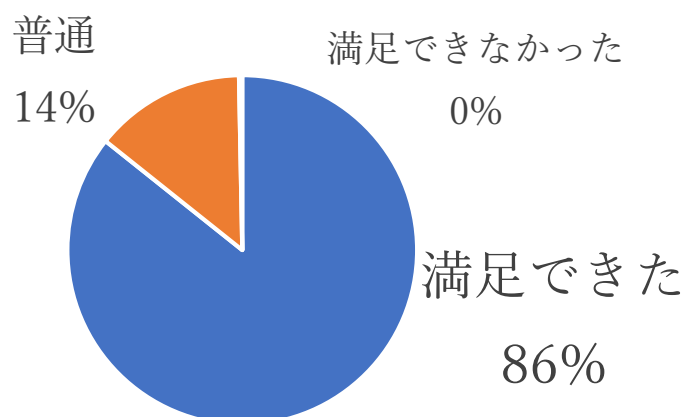
何でこのイベントを
知りましたか



来場目的を教えてください



ITフェアの満足度を教えてください



3. 参加団体様アンケート（回答団体：11団体）

1. 本イベントに出展してくださった理由

- ・普段会うことのない高校生、他企業、安来地区の方と交流でき自分たちの活動を知っていただける貴重な機会だから。（地域おこし XR 研究会）
- ・本校活動の PR（出雲コアカレッジ）
- ・教育貢献活動（テラスカイ）

2. 出展されてみてのご感想

- ・参加者が楽しんでくれた。（デジタルハリウッド米子）
- ・高校で行われているイベントとしては格段に大きく対象も幅広いイベントで驚いた（DARAZ FM）
- ・貴校のお役に立てこと、来場者の皆様に満足して頂いたことがよかった（広島情報専門学校）
- ・自分たちの学校や企業をたくさんの人に知ってもらえてよかった（複数回答）

3. 第4回情報 IT フェア全体の感想や生徒の印象

- ・手伝いとして参加してくれた生徒が誠実で勤勉だった。（島根大学ものづくり部 pim）
- ・学生さんはお客様第一な姿勢に感動した。（スモウルビー甲子園）
- ・全生徒の礼儀正しさがよかった（テラスカイ）
- ・先端技術の展示があり、生徒もきびきびしていてよかった（とっとり自然環境館）
- ・生徒の皆さんがお客様に通路を譲ることなどが徹底されていてよかった（ソフトバンク）
- ・生徒が臨機応変に対応してくれて助かった。（福山大学）

4. 第4回情報 IT フェアの改善すべき点

- ・休憩時間が少ない。
- ・体育館の暖房器具が少ない。
- ・飲食テナントをもっと充実させる。
- ・事前の打ち合わせをしっかりすべきだった。
- ・生徒たちがお互いのブースを紹介できると PR できてよい。

5. 来年度のご出展について

前向きに検討したい 9

再度、検討する

2

6. 物足りなかった点や、その他お気づきの点

- ・出展者同士の交流会やイベントの説明会があると良い。
- ・パンフレットだけでは各ブースが何をしているのかわからない。
- ・予算がわからないので、わかれば何をそろえてほしいか伝えやすい。